

◆技術改良試験事業

メカジキ釣獲試験

水産業改良普及センター 平安名盛正

7月12日03:00糸満西崎漁港を出港。指導漁業士の新垣哲二氏の第8新漁丸でカーチーバーも終わり、本格的な夏到来の季節、海上は少々の波浪はあるものの、船酔いもなく、快調なすべり出しであった。今回の試験には、水産海洋研究センター平手主任研究員が帯同し、哲二さんの部下の大和君の4人での航海であった。漁場は、出港前日に打合せしたとおり、知念沖を目指した。3時間後漁場に到着(N26-03.6 E E128-03.2)06:14早速、旗入れ開始。総数45本を投入予定。今回は、小笠原方式を模倣した方法で、試験用1本目から5本目の旗はトラップ1個を枝の1番と5番に取り付け、2番から4番は針に餌付けとしてムロアジを付けた。哲二さん所有は6本目から45本目までの旗で、すべてトラップのみ。8:48旗入れ無事終了。トラップ式のメリットは引き揚げの際、サメ、エチオピヤなど雑魚の混獲がない。針のもつれもなく、作業効率が上がる。この方式なら旗60本の投入も可能。(針使用の場合最高40本までで旗入れは限界)10:56旗回り開始。途中釣れた可能性のものを引き揚げてみるが、釣獲なし。12:29ラジオブイ回収、本格的に旗揚げ作業開始。途中何本かのトラップにメカジキが触った形跡のあるものが揚がる。(漁具の表面がザラザラとして、ささくれ立った感じがある)期待が膨らむが、釣獲なし、ため息のみ。19:30最後のラジオブイが揚がり作業終了。新たな漁場を相談し、慶良間

諸島の南、慶良間堆へ移動を決定。19:50移動開始。早朝から休みなしの連続、しばしの休息。

7月13日05:10頃慶良間堆(N25-55.4 E127.00.1)に到着。05:31ラジオブイ投入、南向け旗入れ作業開始。07:33旗入れ作業終了(45本)10:16旗回り開始。11:28旗揚げ作業開始。1本目にアブラムツ捕獲(針)。15:1524本目待ちに待った、メカジキ捕獲(約30kg)。トラップ(1番下のトラップ)で尾びれ部分が引っ掛かった状態で捕獲(N25-54.3 E125-58.3)。恐らく、トラップから抜けようとして、最終的に尾びれが絡まったと推測。18:43ラジオブイ回収(N26-51.6 E126-57.9)。収穫は、アブラムツ1尾とメカジキ1本。片付け後、糸満向け航走。午前0時半糸満西崎漁港入港。今回の試験調査を終えた。

私見：漁船漁業の大変さが本当に身に沁みて感じた。あの集中力と忍耐強さには脱帽である。また、哲二さんの弟子の大和君の気働きのすごさにも驚かされた。本当に邪魔ではない私たち両名を手取り足取りしながら、試験が成功するようにあれこれ、知恵を出して頂いた哲二さんには衷心より感謝申し上げます。そして、目標であった小笠原式を用いてのメカジキ漁法であったが、噂どおりメカジキを釣獲することができたことは本当にうれしい瞬間であった。今後は、沖縄式メカジキ漁法考案に向けて、水産海

洋研究センターと共に取り組みたいと考えている。久方ぶりに普及センターに漁業者がメカジキ漁に関して訪ねて来てもらえることで、所内も賑やかな日々となった。それを誇りに思いながら、必要とされる組織であり、そして普及指導員としてこれからも頑張っていきたい。

